

## 〈7〉 男女の地域や家庭における役割等について

### 結果のポイント

- 「日常の家事」と「乳幼児の世話」は、男性だけでなく女性においても、半数以上が女性の役割と「考えて」いる (P34～35)
- 「こどもの教育としつけ、学校行事」「老親や病身者の介護や看護」「自治会、町内会など地域活動への参加」「自治会、町内会、学校関係の役員」はいずれも男女同じ程度の役割と「考える」人の割合が最も高い (P36～39)

### 〈性別役割の考えと現状〉

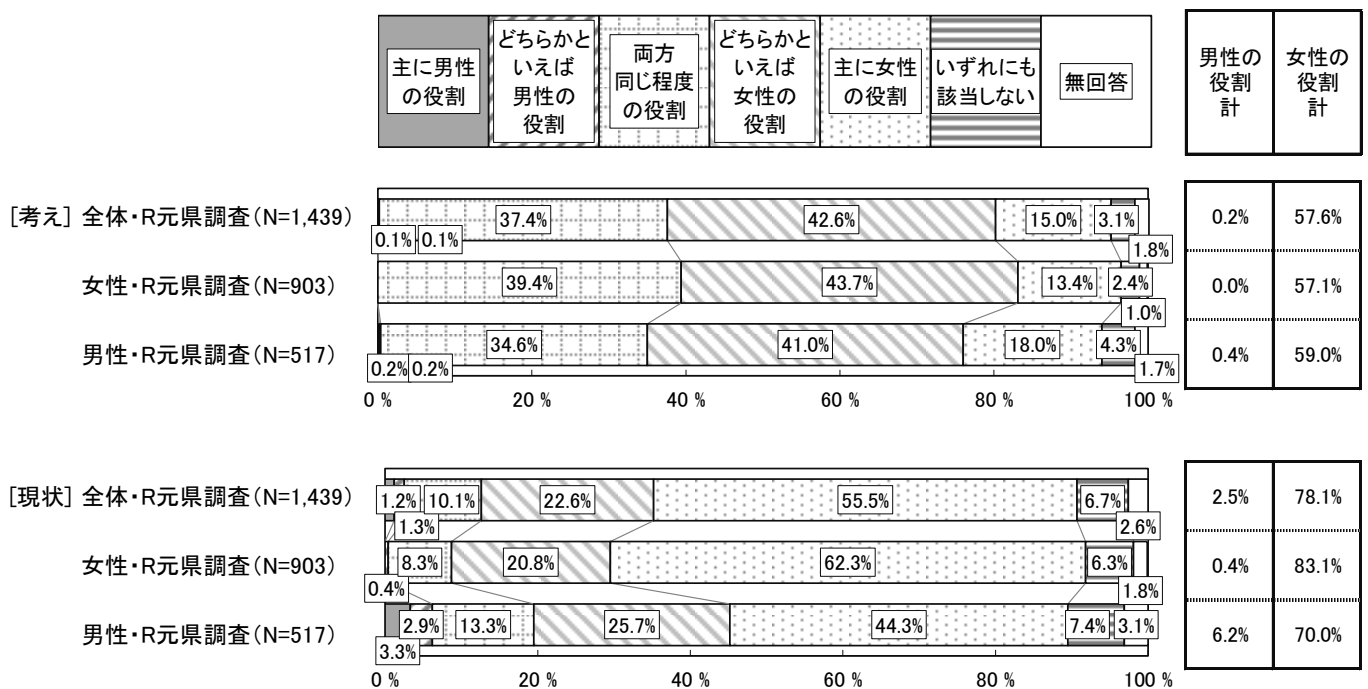
#### ① 日常の家事（食事の支度・洗濯、掃除）

「日常の家事（食事の支度・洗濯、掃除）」を、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は57.6%である。考えと現状の乖離（スコア差）をみると、考えに対して現状は女性の役割となっている人の割合が20.5ポイント高くなっている。

女性では、女性の役割と考える人の割合が57.1%、現状は女性の役割となっている人の割合が83.1%で、考えと現状の乖離（スコア差）は26.0ポイントとなっている。

男性では、女性の役割と考える人の割合が59.0%、現状は女性の役割となっている人の割合が70.0%で、考えと現状の乖離（スコア差）は11.0ポイントとなっている。

図表 日常の家事（食事の支度・洗濯、掃除）



※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

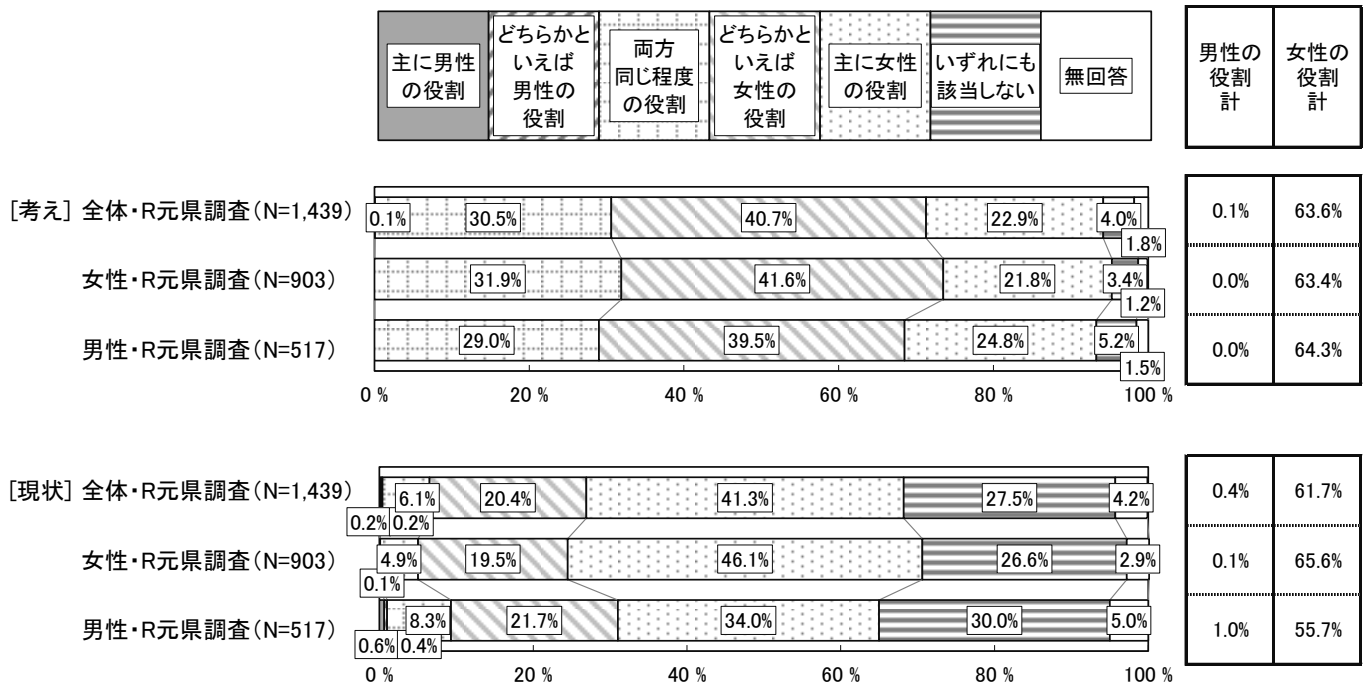
## ② 乳幼児の世話

「乳幼児の世話」を、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は63.6%である。考えと現状の乖離（スコア差）に大きな差はみられない。

女性では、女性の役割と考える人の割合が63.4%、現状は女性の役割となっている人の割合が65.6%で、考えと現状の乖離（スコア差）に大きな差はみられない。

男性では、女性の役割と考える人の割合が64.3%、現状は女性の役割となっている人の割合が55.7%で、考えと現状の乖離（スコア差）は8.6ポイントとなっている。

図表 乳幼児の世話



※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

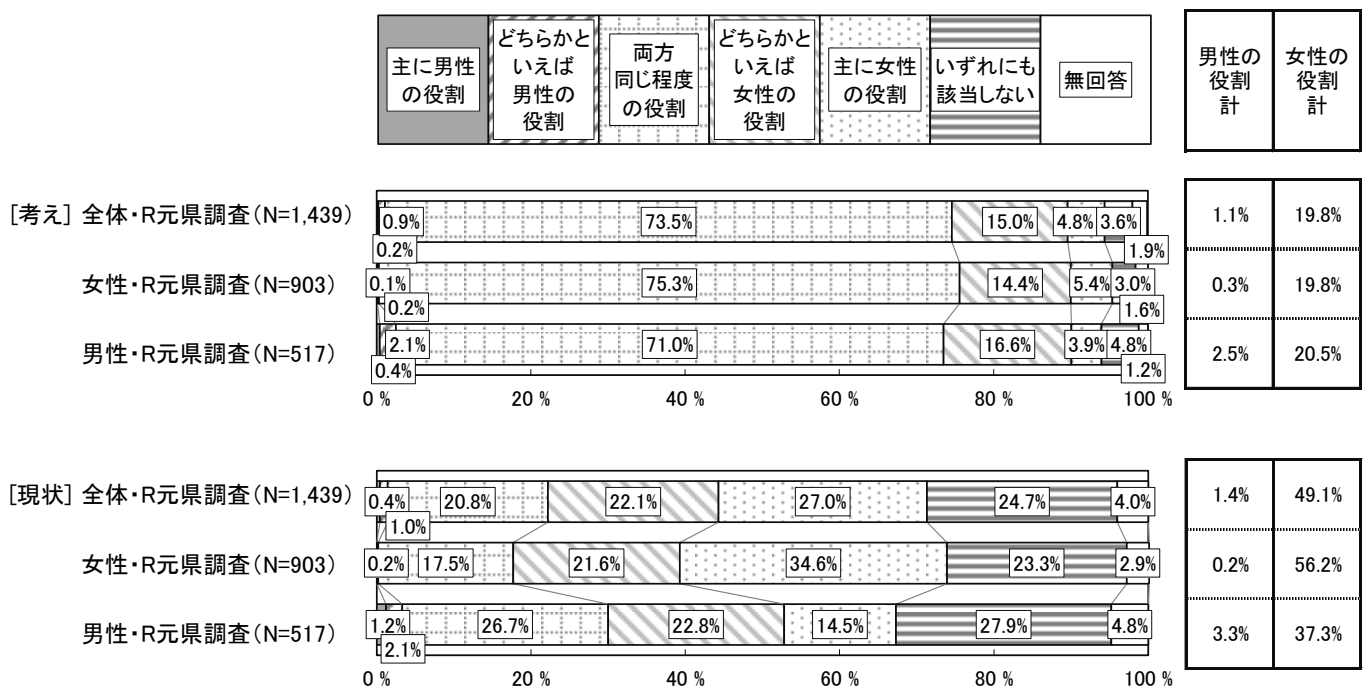
### ③ 子どもの教育としつけ、学校行事

「子どもの教育としつけ、学校行事」を、男女とも同じ程度の役割と考える人の割合は73.5%、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は19.8%である。考えと現状の乖離（スコア差）をみると、考えに対して現状は女性の役割となっている人の割合が29.3ポイント高くなっている。

女性では、女性の役割と考える人の割合が19.8%、現状は女性の役割となっている人の割合が56.2%で、考えと現状の乖離（スコア差）は36.4ポイントとなっている。

男性では、女性の役割と考える人の割合が20.5%、現状は女性の役割となっている人の割合が37.3%で、考えと現状の乖離（スコア差）は16.8ポイントとなっている。

図表 子どもの教育としつけ、学校行事



※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

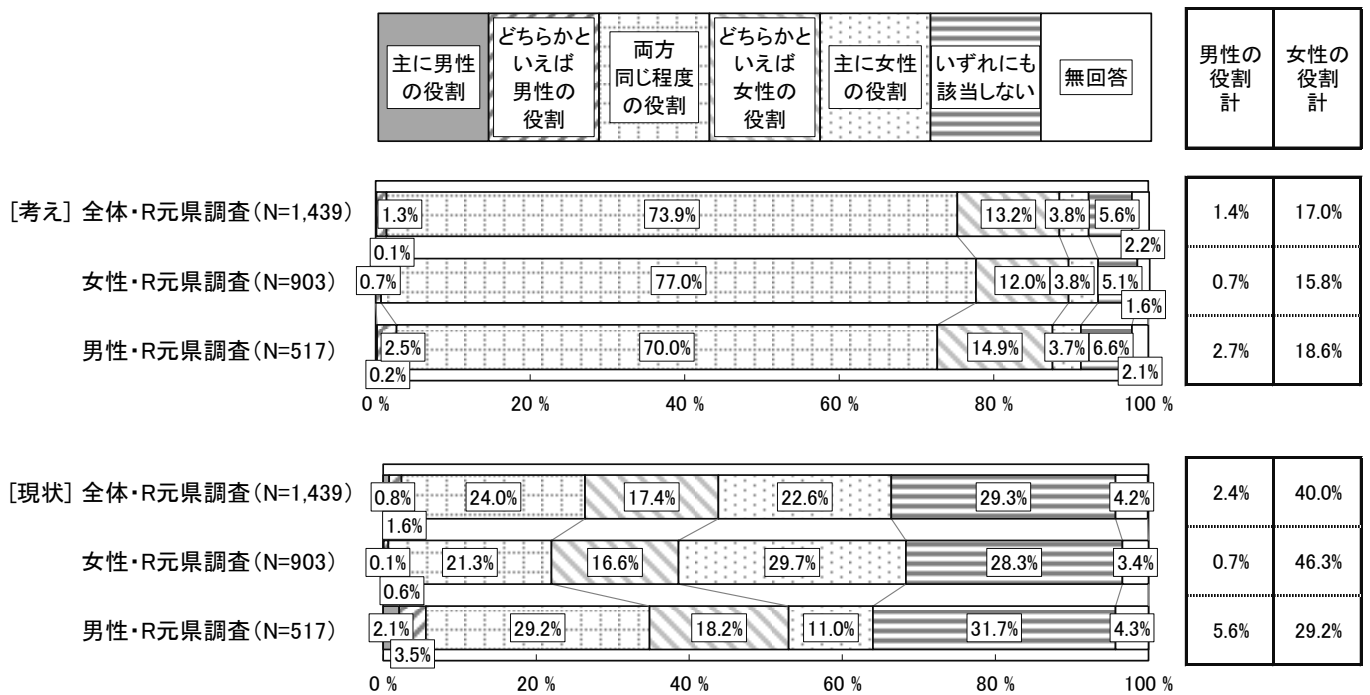
#### ④ 老親や病身者の介護や看護

「老親や病身者の介護や看護」を、男女とも同じ程度の役割と考える人の割合は 73.9%、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は 17.0%である。考えと現状の乖離（スコア差）をみると、考えに対して現状は女性の役割となっている人の割合が 23.0 ポイント高くなっている。

女性では、女性の役割と考える人の割合が 15.8%、現状は女性の役割となっている人の割合が 46.3%で、考えと現状の乖離（スコア差）は 30.5 ポイントとなっている。

男性では、女性の役割と考える人の割合が 18.6%、現状は女性の役割となっている人の割合が 29.2%で、考えと現状の乖離（スコア差）は 10.6 ポイントとなっている。

図表 老親や病身者の介護や看護



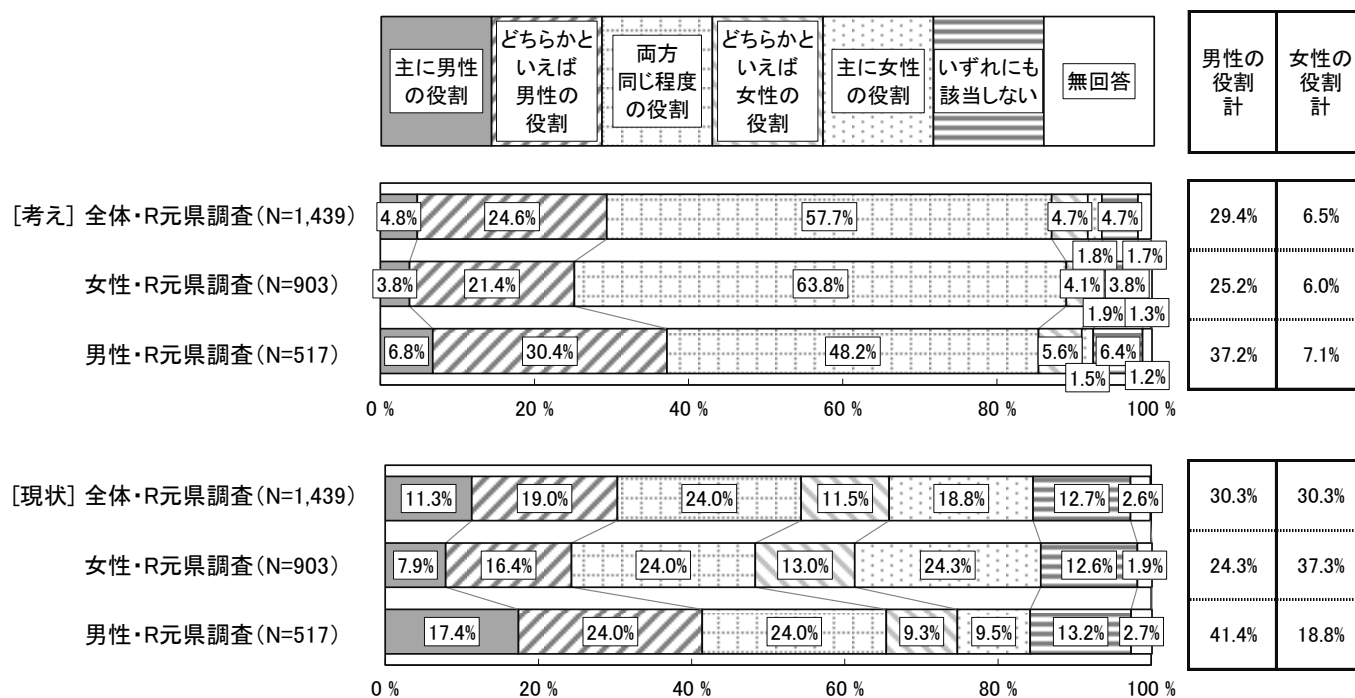
※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

### ⑤ 自治会、町内会など地域活動への参加

「自治会、町内会など地域活動への参加」を、男女とも同じ程度の役割と考える人の割合は57.7%、男性の役割と考える人の割合（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の計）は29.4%、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は6.5%である。

現状においては、男女とも同じ程度の役割となっている人の割合は24.0%、男性の役割となっている人の割合は30.3%、女性の役割となっている人の割合は30.3%となっている。

図表 自治会、町内会など地域活動への参加



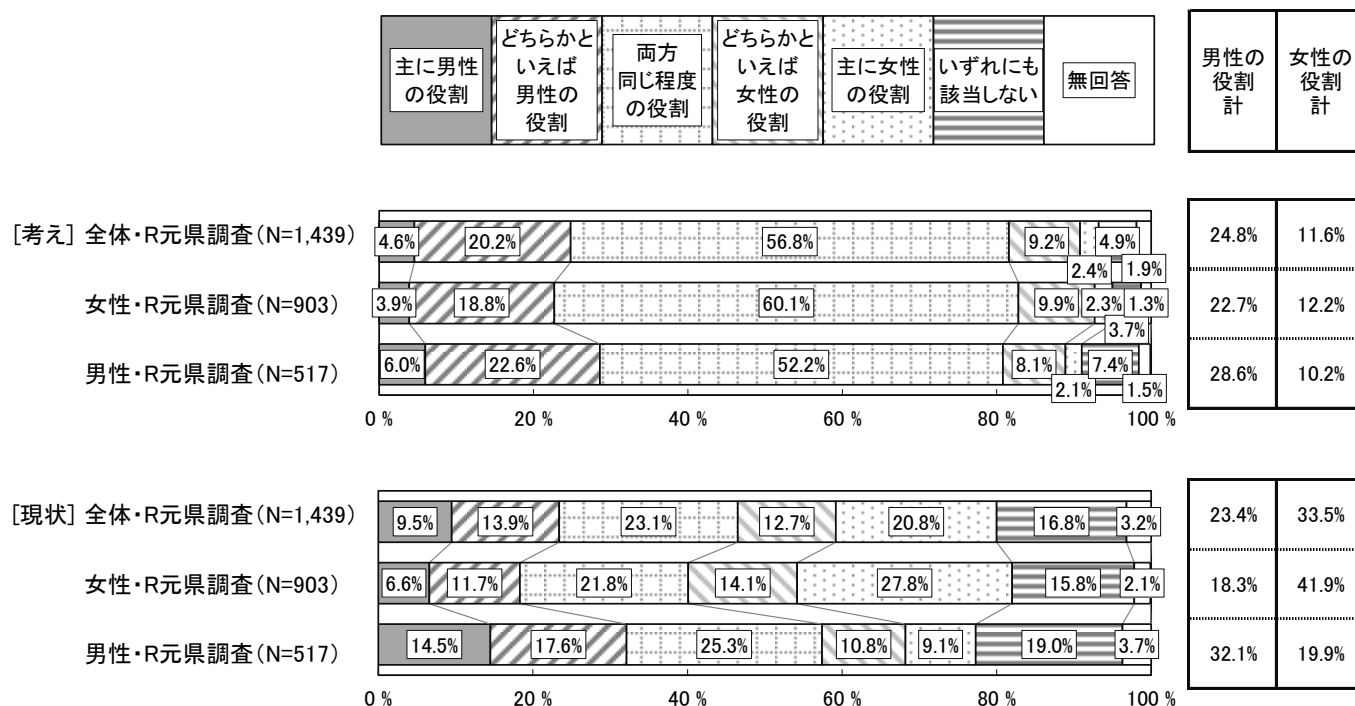
※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

## ⑥ 自治会、町内会、学校関係の役員

「自治会、町内会、学校関係の役員」を、男女とも同じ程度の役割と考える人の割合は56.8%、男性の役割と考える人の割合（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の計）は24.8%、女性の役割と考える人の割合（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の計）は11.6%である。

現状においては、男女とも同じ程度の役割となっている人の割合は23.1%、男性の役割となっている人の割合は23.4%、女性の役割となっている人の割合は33.5%となっている。

図表 自治会、町内会、学校関係の役員



※ 男性の役割計：「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」の合計、  
女性の役割計：「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」の合計

◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「家庭と地域における女性の役割負担の軽減が課題」  
関西大学文学部 多賀 太教授

「男女の地域や家庭における役割等について」に関する回答結果からは、改めて家庭と地域における性別役割において、女性への負担の偏りが明らかになった。

まず注目すべきは、多数派の人々は日常の家事や乳幼児の世話を女性の役割だと考えているという結果である（P34 図表、P35 図表）。男女合わせた全体で見ると、「①日常の家事」については、「女性の役割」（「どちらかといえば」の回答を含む、以下同様）との回答は 57.6%であるのに対して、「（男女）両方同じ程度の役割」との回答は 37.4%にとどまり、「男性の役割」との回答にいたってはわずか 0.2%である。「②乳幼児の世話」についても、「女性の役割」との回答は 63.6%と 3人に 2人の割合であるのに対して、「両方同じ程度の役割」との回答は 30.5%しかなく、「男性の役割」との回答はわずか 0.1%である。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」というより一般的な性別役割分担に関する考え方については、「賛成」の割合（「どちらかといえば」を含む、以下同様）42.9%を「反対」の割合（54.9%）が上回っており（P32 図表）、また「カジダン」や「イクメン」などの言葉とともに家事や育児に積極的に参加する男性のイメージも浸透してきているかに思えるが、家事や乳幼児の世話は女性の役割であるという意識は県民の間でいまだ根強いようだ。

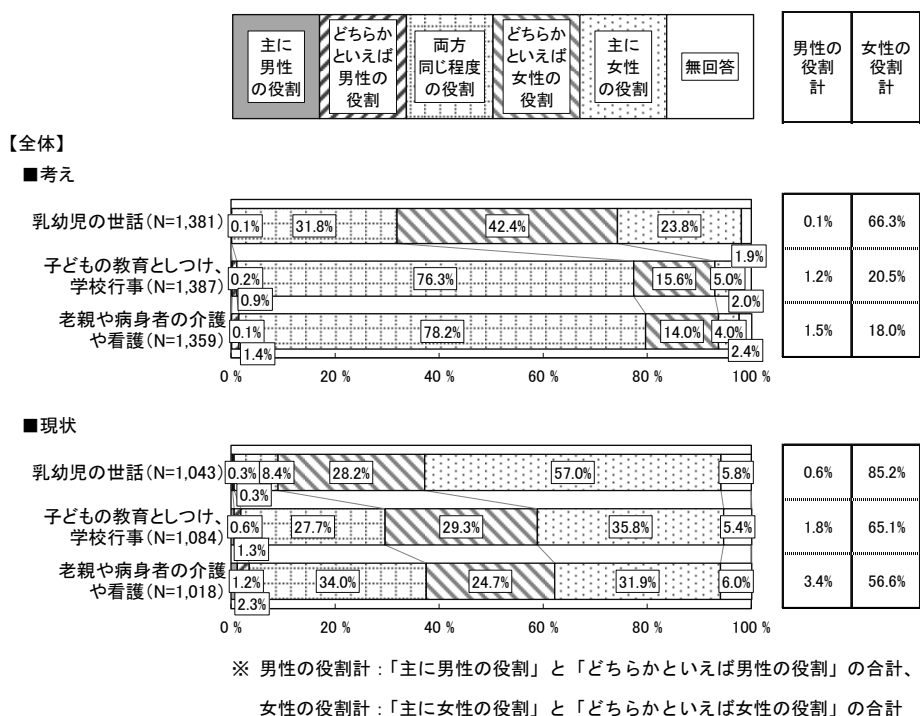
もう 1 点注目すべきは、調査した 6 つの役割のすべてにおいて、回答者の性別を問わず、「女性の役割」と「考える人の割合」に比べて、「現状」として「女性の役割」となっていると見なす人の割合が高く、「乳幼児の世話」以外の 5 つの役割に関しては、「考え」と「現状」を比較すると「現状」の方がそれぞれ 20~30 ポイント高い（P34~P39 各図表）。

さらに実態を反映させるために、子育てや介護の「現状」がない方の回答（該当しない）を除いたものを 100%とすると、6 つの役割の中で、「女性の役割」の「考え」と「現状」の乖離が最も大きいのは、「③子どもの教育としつけ、学校行事」で、「考え」（20.5%）よりも「現状」（65.1%）が 44.6 ポイントも高くなっている。次いで「④老親や病身者の介護や看護」では、「考え」（18.0%）よりも「現状」（56.6%）が 38.6 ポイント高くなっている（P41 図表）。

ここで見落としてはならないのは、「該当しない」の回答を含めて計算した場合は「考え」と「現状」の割合が同程度だった「②乳幼児の世話」についても、「女性の役割」との「考え」（66.3%）に対して「現状」（85.2%）は 18.9 ポイントも高くなっていることである。

このように、人々の「考え」に比べて「現状」は圧倒的に女性たちがこれらの役割の責任を負わされているという現実がうかがえる。このことが、女性たちにさまざまな生きづらさをもたらし、就労を希望する女性たちの就労を妨げる一因になっていることは想像に難くない。まずは少なくとも家庭や地域における女性の役割負担の「現状」を人々の「考え」の水準に近づけるための取組が早急に求められるといえよう。

図表 各分野の性別役割の考えと現状（「該当しない」を除く）



◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆「子育てに関わりたいと思っても、子育てに関わることができない男性」

大阪教育大学教育学部 小崎 恭弘准教授

「男女の地域や家庭における役割等について」については、男性の「考え」を見ると「乳幼児の世話」「子どもの教育としつけ、学校行事」について、ある程度の意識を持って関わりたいと考えているのがわかる（P35 図表、P36 図表）。特に父親と母親が同じ程度に関わることに對しての意見（「両方同じ程度の役割」）が多く見られる。男女共同参画時代に相応して、子育ての志向であると言える。そのこと自体は純粋に評価したい。

しかし各家庭の「現状」になると、「両方同じ程度の役割」の割合は大きく減少している（P35 図表、P36 図表）。実際の育児や子どものしつけに関しては、まだまだ母親がその中心となっており、育児をする父親像はあくまで「意識レベル」にとどまっていると言える。

父親の育児の推進が叫ばれ「イクメン」という言葉も生まれている。男性の育児休業が社会的な関心を集め、制度の改定や政治家の取得などもメディアで見られるようになってきている。しかし現実レベルにおいては、掛け声倒れと言わざるを得ない。